

編集後記

会報第 42 号をお届けします。本号は「論壇」として 6 名の先生方に自身の専門分野にかかる投稿をいただいた。まず、鈴木孝子先生には、研究開発独法としてのブランディング戦略について、農研機構のこれまでの取組と今後の課題についてご紹介いただいた。安尾しのぶ先生には、生体のリズムと食事・栄養の相互関係を探求する分野である時間栄養学において、24 時間周期の既日リズムを制御する既日時計の応答性の性差に焦点をあてて最新の研究成果を含め紹介していただいた。林絵里先生には、持続可能な農業の一つとして植物工場の現状と、総合学習ツールとして最適性や地域計画に寄与し社会的にも貢献し得ることを論じていただいた。金井正美先生には、わが国の動物実験の実施体制の現状と課題について提起していただき、田中あかね先生には、獣医学教育の特徴と社会貢献、加えて自身のウマ研究の一部も紹介していただいた。また、磯部祥子先生には、驚異的なスピードで進む植物ゲノム解析技術としての次世代型シーケンス技術の進歩と現状、ゲノム解析の深化と応用について論じていただいた。ご多忙中の先生方には、執筆の労に感謝申し上げたい。

さて、職場では労働災害防止に取り組んでいますが、同じような労働災害が繰り返されているというのが現状です。その原因の一つには、起きている労働災害を自分事として捉えず他人事としていることがあげられます。このことは、起こるかも知れない地震や豪雨などに対する準備にも共通し、如何に真剣に自分事として考え行動するかが生死を分けることになるかもしれません。ところで、今夏や昨夏の猛暑を思えば地球温暖化は、起こるかもしれないという予測ではなく自分事として実感できる現実です。そして農業を巡るもう一つの深刻な課題である将来の農業労働人口の低下についても、赤子が急に大人になるわけなし、すでに現実でしょう。地球温暖化や農業労働人口低下の現実に対し、もちろん皆が目をつぶっているわけではありませんが、自分事と捉えてさらに知恵を出し行動することが急がされています。

(湯川智行)